

第11期 2021（令和3）年度

社会福祉法人もやい聖友会 事業計画

第11期 社会福祉法人もやい聖友会 事業計画

今、少子高齢化、核家族化、人口減少等が進行し地域のつながりが希薄化する中、すべての地域住民が役割を持ち、「我が事、丸ごと」の気持ちで支え合いながら暮らしていける、地域共生社会の実現が求められています。このような中で、社会福祉法人もやい聖友会は、「公益性・非営利性の徹底」「国民に対する説明責任」「地域社会への貢献」を基本的な視点として、前年度に引き続き従来以上にガバナンスを強化し、法人運営の透明性の確保に努め、より開かれた地域になくしてはならない法人を目指して、事業所の運営や地域活動を進めていかななくてはならないと考えています。

また、コロナ禍の中での、潜在的な地域のニーズや課題を的確に把握し、職員や利用者と共に、地域の活動や地域課題の解決に向けた社会貢献活動に、積極的に取り組んでいくこととします。その活動を通して、社会的処方と言われる「社会的な繋がり」を処方することで社会的孤立をなくし問題解決を図るという考え方で、人と人のつながりを深め、福祉施設を拠点とした地域包括ケアシステム、地域共生社会の構築、推進に努めます。

そして、今までと変わらず、職員、利用者が地域の住民、社会の一員として、楽しく笑顔ある生活を送れるようにします。事業所においては、人材不足といわれている職員の確保や、教育、資格取得に向けた支援や、適材適所への人員の配置等を見直すことによってサービスの質の向上につなげ、人件費が高騰する中で、職員のやりがいやモチベーションのアップにつながるような現場環境を考え、報酬と人件費などの適切な収支バランスを計画し、運営していきます。職員が、楽しく前向きに働ける職場であり、働く人からも選ばれる法人を目指します。

今後も、引き続き家族や地域の方々との信頼関係を深め、相互理解、協力をし、いけるよう務めます。

1. 法人理念

『おたがいさまで笑顔がいっぱい』

2. 今期の目標

利用者やその家族が、在宅、施設共に、住み慣れた地域や社会の中で、地域住民として笑顔あふれる健康で豊かな生活を送っていただけることを目標にしています。また、医療、福祉、そしてまちが一体となった誰ひとりも孤立しない安心安全な次世代を育てられる地域共生社会を目指して活動していきます。災害、感染症など利用者を取り巻くリスクに対して、職員一丸となり安全対策を図っていきます。

- ①誰もが「地域住民」「社会の一員」として笑顔で生きるお手伝い
- ②地域の人が地域の人を支えていける地域共生社会のために、人と人、人と地域を繋ぐ
- ③次世代育成を考えた「生きるを繋ぐ」活動

3. 運営事業

(1) 介護保険事業

特別養護老人ホーム

ケアプラザ倶楽部雪月花（29床）

银杏庵穴生倶楽部（120床）

短期入所生活介護

短期入所生活介護 円（10床）

短期入所生活介護 ゆい（10床）

認知症共同生活介護

グループホーム蓬萊（18室）

小規模多機能共同生活介護

喫茶去庵（25名登録）

(2) 保育事業

北九州認可小規模保育事業所

もやいのうち保育園（定員 19 名）

華里おひさま保育園（定員 19 名）

事業所内保育

おひさま保育園

(3) 障がい福祉事業

障がい児放課後等デイサービス

もやいのえんがわ（定員 1 日 10 名）

未就学児児童発達支援事業所

もやいのえんがわ（定員 1 日 10 名）

就労継続支援事業所 A 型

MOYAI ステーションねむのき（定員 1 日 10 名）

(4) その他の事業

ふれあい村竹末 見守り事業

MOYAI ステーション 96cafe（多世代交流サロン コミュニティカフェ）

4. 重点目標

- (1) 法人運営基盤の安定
 - ① 事業収支±0
 - ② 会計、経理業務の改善
 - ③ 法令遵守
 - ④ リスク管理
 - ⑤ ワークライフバランスを考えた人材の確保と育成
 - ・健康経営優良法人の認定に向けての準備
 - ・健康宣言ふくおかの実践
 - ・介護応援宣言への登録とその実践
 - ・出会い応援団体への登録とその実践
 - ・子育て応援宣言への登録とその実践
- (2) 大規模災害に備えた防災・減災
 - ・事業継続計画の策定、設備・備品の見直し
 - ・管理・北九州市の福祉避難所としての登録と機能のための整備
- (3) 今後の事業展開の検討・準備
 - ①低所得者向けの介護事業の検討
 - ②他法人とのコラボ事業
 - ・NPO 法人 Needs
 - ・ボルクバレット北九州
 - ・空き家活用プロジェクト

5. 各部署実施計画

- (1) 理事会(5月下旬:決算・9月中旬:補正予算・3月上旬:予算)
評議会(6月中旬:決算・10月上旬:補正予算・3月下旬:予算)
- (2) 経営・管理者会議(定例月1回の開催)
 - ① 事業経営安定化のための経営分析
 - ② コンプライアンスのための各事業の定期的な確認
 - ③ 人員の確保と適正な配置
 - ④ 施設・設備の修繕に関する実施スケジュール及び資金計画
 - ⑤ 理念や運営方針共有のための理事長研修
- (3) 主任会議
 - ① 信用を損なうことのない運営
 - ・各種法令や運営基準等に対する遵守度の確認とそのための職員教育
 - ・法人及び各事業の運営状況等の積極的な情報の開示
 - ② サービスの質の管理

- ・ 「笑顔」と「あいさつ」を基本としたサービスの徹底
- ・ サービスに関する各種マニュアルの見直しと提供サービスの評価
- ・ 事故や苦情に対する迅速かつ丁寧な対応

③ 人材育成

- ・ 研修計画の作成と実施
- ・ 人事考課に基づいた職員個々の育成
- ・ 教育実習、ボランティアの積極的な受け入れ
- ・ 資格取得のための支援

④ リスクマネジメント 5

- ・ 接遇、事故防止、苦情等に対するリスク回避のための研修
- ・ 感染症の発生、蔓延予防のための発生状況の把握と予防策の作成、職員への研修

(4) 介護老人福祉施設

① 目標稼働 稼働率 98.0%

② 空床発生時の対応

- ・ 空床発生時には、臨機応変に短期入所として活用
- ・ 利用申込者の状態把握(実調)を相談員により毎月 5 件行い、空床発生から 1 週間を目安に新規受け入れを行えるようにする

③ 多職種連携の強化

- ・ 職種、部署、職員間の共通理解を形成し、多職種協働によるサービスを提供し、看取りへの理解や積極的な受け入れ体制を構築
- ・ 施設サービス計画及び栄養ケア計画等、多職種協働による形成、カンファレンス(アセスメント、モニタリング)の充実

④ ローコストオペレーション

- ・ 業務の見直し、マニュアル化による無駄な動きの整理
- ・ 物品関係の実績を毎月、評価・検証を各委員会の担当レベルにて行う
- ・ サービスに関する物品のコストパフォーマンス面での見直し

⑤ フィリピンをはじめとした特定技能実習生の受入れの検討

- ・ 介護の現場の中の生活支援での人手不足の削減
- ・ 文化的背景の異なる職員がいることで相互理解のための思いやりをもった職場への変革、多文化共生への理解

(5) 短期入所生活介護

① 目標稼働 稼働率 80.0%

② 新規顧客の開発とリピーターの継続利用

在宅高齢者であることを踏まえ、お客様のご家庭での状況を理解し、在宅生活が長く送ることが出来るサービスを提供する

③ ローコストオペレーション

業務の見直し、マニュアル化による無駄な動きの整理

(6) 社会貢献事業

①地域包括ケアの構築推進に向けて

医療・介護・予防だけでなく、それらを支える土台となる本人や家族の選択と心構え、そして、地域における生活の基盤となる「住まい」「生活支援」のシステムを構築していくためのまちづくり活動への参加をします。事業所を開設している洞南地区での地域の活動のお手伝いを積極的にを行います。

②地域福祉の核としての存在

高齢者だけでなく障がい者や子育て支援など、地域の人にとって相談できる「地域包括ケアセンター」や「まちの保健室」「もや通りマルシェ」、子ども食堂である「みんなの食堂もやい」の運営や、施設の貸し出しを通して、地域に居住する子どもから高齢者までの居場所づくりを行い、コミュニティの場として機能できるような運営を行います。施設や人材を地域のために活用していただけるように努めます。また、子育て支援を通して次世代の育成にも力を入れます。

③地域の活性化

北九州は、政令市の中でも高齢化率（65歳以上人口）がトップです。

①や②を実践することによって、住みよいまちを目指し地域の価値をあげることによって地域の活性化につなげていけるよう率先して考えていきます。

④地域貢献活動への支援

職員が地域の行事や運営の手伝い・ボランティア等を行った場合、職場と離れたところでも、地域貢献に積極的に取り組もうとする職員を応援します。

社会福祉法人が、施設などの事業所運営だけを行っていても、公益性は希薄化し営利法人となら変わりがなくなってしまいます。新たな公益性を示すための取り組みをすべきであり、それはその地域で必要とされることであり、社会情勢にも合致した社会貢献事業を考えていかななくてはならないと考えています。

<今後も継続していく地域貢献活動>

- ・月 1 回の洞南地区地域包括ケア推進会議
- ・八幡西繋がるまちづくり大発会
- ・施設の貸し出し
- ・カフェ楓の運営

- ・地域コミュニティ FM ラジオのスタジオの運営
- ・緑ヶ丘第二幼稚園や地域の小中学校との交流活動
- ・お月見茶会
- ・洞南肆地区山笠のしぶき作り
- ・洞南肆地区山笠の休憩場所の提供
- ・健康ランポリンなど健康教室の開催
- ・サービス付き高齢者向け住宅での「ひとつ屋根プロジェクト」の支援
- ・まちかど介護相談室の開設
- ・MOYAI ステーションねむのき（まちの保健室）
- ・気になるこどもの相談カフェ
（北九州市、NPO 法人地域医療連携団体 Needs との協働事業）
- ・みんなの食堂もやい
（子ども食堂ネットワーク加盟団体北九州市こども家庭局）
- ・モバイル屋台（専門職による地域の中での健康相談や介護相談）
- ・赤ちゃんの駅 登録
- ・福祉避難所 登録
- ・もやいメディケアシネマ（医療や福祉を題材とした）映画上映会
- ・竹末小学校などでのキャリア教育
- ・地域のまち美化清掃活動
- ・龍王神社でのお花見茶会お手伝い
- ・龍王神社の注連縄づくりのお手伝い
- ・地域の連絡調整会議への参加
- ・黒崎まちなかオレンジカフェ
- ・黒崎まちゼミ
- ・黒崎まちなか探検隊
- ・もやい通りマルシェ
- ・西日本国際福祉機器展への出展やセミナー開催
- ・出張健康チェックや健康・介護相談
（オレンジカフェ、市民センター、サロン等）
- ・ボルクバレット北九州応援団（職員、入居者、利用者とともに）
- ・落語家の橘屋文太さん応援団